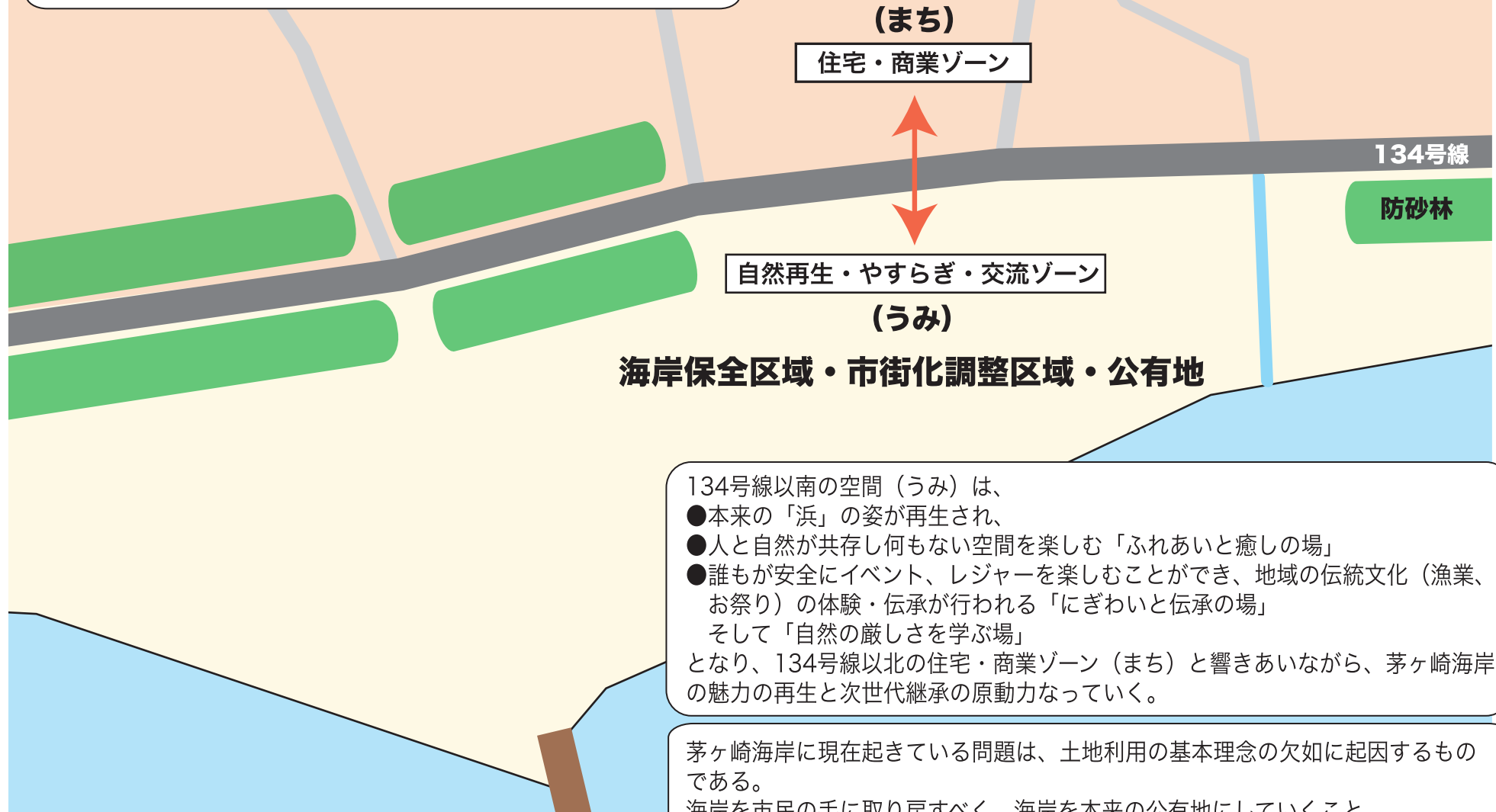


# 茅ヶ崎海岸グランドプラン：「茅ヶ崎海岸再生への道」 茅ヶ崎海岸の将来像・目標像（2010年）

## 基本理念

茅ヶ崎海岸の自然を取り戻し、その恵を引き出し、誰にも優しい安らぎの場として守り、育て、再生する。



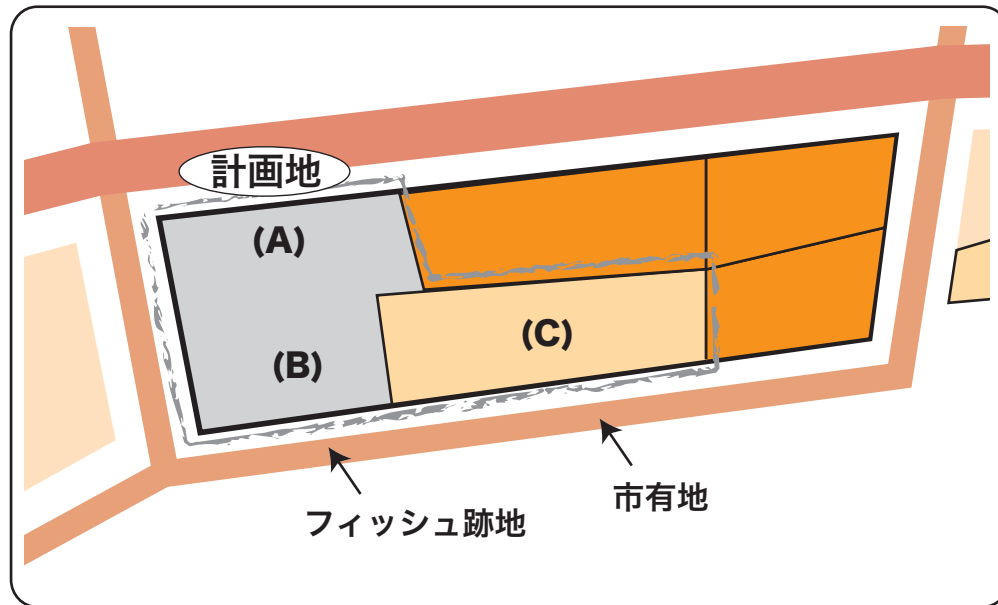
134号線以南の空間（うみ）は、

- 本来の「浜」の姿が再生され、
- 人と自然が共存し何も無い空間を楽しむ「ふれあいと癒しの場」
- 誰もが安全にイベント、レジャーを楽しむことができ、地域の伝統文化（漁業、お祭り）の体験・伝承が行われる「にぎわいと伝承の場」  
そして「自然の厳しさを学ぶ場」

となり、134号線以北の住宅・商業ゾーン（まち）と響きあいながら、茅ヶ崎海岸の魅力の再生と次世代継承の原動力になっていく。

茅ヶ崎海岸に現在起きている問題は、土地利用の基本理念の欠如に起因するものである。  
海岸を市民の手に取り戻すべく、海岸を本来の公有地にしていくこと。  
これが、茅ヶ崎海岸グランドプランの理念実現への王道と考える。

# 「(仮称) ちがさきハマヒルガオ海浜緑地」プロジェクト (案)



## ■整備イメージ

- Aエリア：フィッシュ跡地：134号線と同レベル（平坦）
- Bエリア：フィッシュ跡地：134号線下のレベル（斜面）
- Cエリア：市有地（平坦）

### A・Bエリア：雄大な景観と植生を楽しむ

- ・サーフボードをリサイクルしたベンチ
- ・斜面を活用した眺望スポット等

### Cエリア：浜の自然植生再生研究と海岸利用者に利便を提供

- ・自然植生再生のための試験・研究の場
- ・管理者、植物等展示のための施設（コンテナハウス）
- ・トイレ（ユニバーサル仕様。海岸利用者全体のために整備）
- ・砂浜用車いす等のレンタル、救護所（コンテナハウス）

## ■プロジェクトの概要

- ・茅ヶ崎海岸を正しい姿（本来の浜の姿）に戻していくというランドプランの目的達成のために、フィッシュセンター跡地を公的なオープンスペースとして残す。
- ・隣接する市有地と合わせ「海浜緑地（ちがさきハマヒルガオ海浜緑地）」として整備する。
- ・フィッシュ跡地は買い取り／借り上げ／市有地との交換等の手法で確保する。

## ■主な機能

- ・公的なオープンスペースが確保され、市民に憩いの場を提供する。
- ・海岸の自然植生再生に向けた取り組みが行われる。

## ■整備の基本的考え方

- ・「自然の浜の再生」がすべての基本であり、人工物は必要最低限に留める。

## ■緑地の基本的考え方

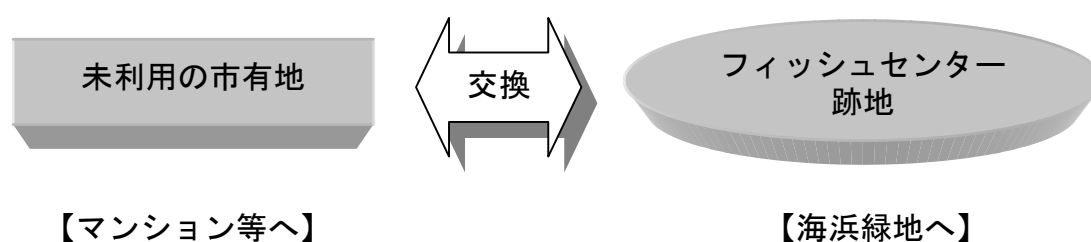
- ・コウボウムギを主体にし、ハマヒルガオ、ハマボウフウ、ハマニガナ、ケカモノハシ、ビロードテンツキ、コマツヨイグサ、コウボウシバ、ハマアオスゲ、オニシバ、ギョウギシバ、ツルナ、ハマダイコン、ハマエンドウ、ハイメドハギ等の草本、ハマゴウ、テリハノイバラ、マルバアキグミ等木本による群落の形成を図る。
- ・生物多様性保護・遺伝子かく乱を避ける国際的潮流を尊重し、人から隔離する必要と自然観察目的でボードウォークの設置、植物名等を記載した立て札をボードウォーク脇に設置、国道南沿いに上記の施設を設け、海岸動植物の保護観察・学習、啓発事業を行う。
- ・保護・観察・育成研究のため、大学を含む専門家とのネットワーク、総合学習に関しては市内の教育機関、漁業者・サーファーほか海を利用するグループやライフセービングの市民団体との連携を図る。
- ・施設の性格役割上防犯も含め、年間通してほぼ開いておくため運営は行政と市民団体で協働することが望ましい。

## 「(仮称) ちがさきハマヒルガオ海浜緑地」プロジェクト実現のための手法(案)

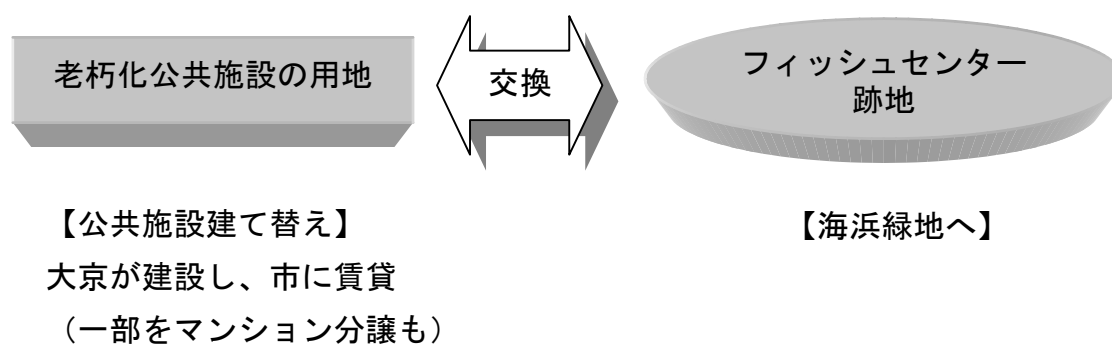
フィッシュセンター跡地を公的なオープンスペースとして残す手法として、買い取り／借り上げ／市有地との交換等の手法が考えられる。

買い取りについては臨時議会で請願が採択されたところであり、その方向での検討が市で行われているものと思われるので、ここでは「市有地との交換」について提案したい。

### タイプ1



### タイプ2



老朽化した公共施設は耐震性の観点からも、建て替え、大規模修繕が必要だが、特に市庁舎は防災面でも拠点となることから、早急な対策が求められる。市庁舎周辺の公共施設(市民文化会館、市営駐車場)も同様である。

このほか、福社会館、文化資料、萩園地区の屋内温水プールなども老朽化が進んでおり、庁内において再整備が検討されている。また庁内において、公共施設用地として可能性を有する土地として、常盤町茅ヶ崎テラス、汐見台の経済産業省茅ヶ崎臨海研究施設跡地などが挙げられている。

これ以外に、市立病院、体育館、図書館等の建て替えの必要性を指摘する声もある。